

# 相談ネットワーク通信

2014. 3. 14(金)

子育て・教育なんでも相談ネットワーク 岡山市北区表町1-4-64 上之町ビル3F

No.83

TEL・FAX 086-226-0110 Eメール: soudan-net@vivid.ocn.ne.jp

## 奥田さん たくさんさんの思い出を

# ありがとう

難波 一夫

昨年の暮れ、師走の14日の朝、奥さんから電話があった。

「奥田です」

戦慄が走った。動悸が打った。

「昨夜、亡くなりました」・・・  
「なんということか。言葉が出ない。奥さんの温かな顔が浮かんで消える。こんなに早く逝ってしまうとは・・・。どうして、どうして！」

仲間の中で、一番古く、苦楽をともにしてきた奥田さんが亡くなった。

黙々と作る「ネットワーク通信」。1994年の12月No.14から2013年の7月のNo.79まで、まことに大きな足跡を残してくれた。

完成したときの嬉しそうな顔。

今も浮かんでくる。

彼は、パソコンソフトの「編集長」で作りあげ、もう一度

「手書き」で書き直すという、まことに手のかかる仕事をやってのけていた。それも毎号ごと。会員のかたの評判がよく、読みやすい、親しみを感じる・・・などの声が伝わってきた。

もつとも手きびしい批評家は、奥さんだったらしい。「こう言っていた」と、いつもニコニコしながら教えてくれていた。

辛かったのは、お孫さんの「不登校」の時だっただろう。

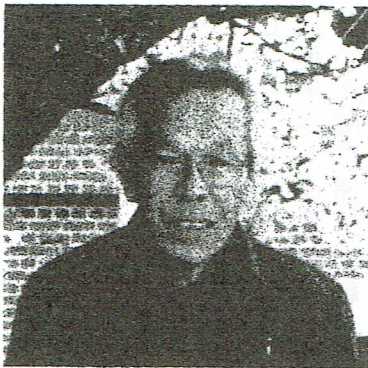
長年の相談活動のなかで培った経験が役に立ったのだと思う。思春期の中学生の気持ちを伝えながら、母親と毎日のようにメール交換をしていた。それを時々

読ませてもらいながら、「ええお爺ちゃんなんじゃなあ、羨ましいなあ」というと、辛そうな顔が少しだけ和らいで見えた。  
「愛して、信じて、待って」のメッセージを彼の相談体験と混ぜながら、心をこめてメールしていたのである。

「このメール相談を本にしたらええ参考になるなあ」  
「そうじゃなあ、孫が元気になつたらなあ」

その後、お孫さんは高校生になつて一日も休まず登校しているという。葬儀のとき、お孫さんが元気にしておられる姿を見て快復されたと実感した。

次ページへつづく



在りし日の奥田先生

歌が得意であった。十年ぐらい前、お酒を飲んだあとカラオケに行った。色々歌ったあとで探したのが「島田歌穂」。でも、カラオケにはその人の歌がなかった。

ある時、彼の車に乗せてもらった。その時に歌を聴いた。素晴らしい歌唱力を持ち主だと思った。その後、彼女は、大学の先生になったと聞いていて、奥田さんの好みは半端ではないなと思つたものだ。

思い出はきりなく走馬灯のように廻ってくる。名残りはつきない。自分より若い人が先に逝くのは辛い。才能のある人がいなくなるのはもつと辛い。

でも、日月は多くの思い出をありがとうと言えるようにしてくれる。

奥田さん 安らかに眠れ。ネットワークのために長い間ほんとうにありがとう。

なんば かずお

## 悼惜 奥田さん

安東 誠

奥田さんとの出会いは、一九九四年の十二月でした。以来十六年間にわたり、相談活動の仲間として共に歩んできた畏友だっただけに、あまりに突然の悲報に愕然としました。未だに信じたくない思いですが、今はもう心からご冥福を祈る他ありません。

『相談ネットワーク通信』のわたしのひとこと欄に、会員のKさんから「今では、ほとんど目にするのが無くなった手書きの通信。ネットワークを支えていらつしやる先生方の心の温かさが感じられ、幸せな気持ちで読ませていただいています」というありがたい言葉が寄せられています。「手作り」の会報いつもありがとうございます。内容への感想と併せて、

て親しみの声をいただいています。

この「手書き通信」こそ、奥田さんが治療に専念される直前まで二十年の歳月、精魂を込めて仕上げられてきたものです。

文字は人を表すと言いますが、一字一字に心が込められていて文面の最後までもおろそかな書き方は見られません。会員のみなさんとネットワークの結びつきを深めようという熱い思いが私に伝わってきます。そのことと「信じて、愛して、待つて」など、子どもへの深い思いを込めた通信の内容と相まってKさんのように受けとめていただけたのだと思うのです。子どもたちをはじめとして、弱者への深い思いやり、

その弱者をないがしろにするものたちへの厳しく鋭い批判など、豊かな人間性は人柄のおだやかさと共に、わたしの心に残り続けるでしょう。

奥田さんの豊かな人間性といえば、通信に載せられている「わたしの好きなことば」にも、みられます。

高知県の中学校教師、竹本源治氏の詩「戦死せる教え兒よ」をあげ、思いが書かれています。

逝いて還らぬ教え兒よ

私の手は血まみれだ

端を私は持っていた

しかも 人の児の師の名において

嗚呼！「お互いにだまされていた」

の言い訳が

なんでできよう

慚愧 悔恨 懺悔を重ねても

それが何の償いにならう

逝った君はもう還らない

今ぞ私は汚濁の手をすすぎ

涙をはらって

君の墓標に誓う

繰り返さぬぞ絶対に

奥田さんは書いています。(通信56号)私がこの詩を初めて読んだとき涙があふれて止まらなかったのを覚えています。私は、記憶の根底にあったこの詩(こ とば)をもう一度しっかりかみしめたいと思っ ています。「教育基本法」が改悪されて「憲法9条」が狙わ れているいまだからそ・ ・・。

この思いを胸に、ねばり強く誠実に活動を続けてこられた奥田さん。「戦争をする国」にむけて甚だ危険な状況。病との闘いのなかで、一日も早い活動への復帰を願っておられたであろう。その苦悩を察すると胸が痛みます。奥田さんの志を継ぐ、そのことが何より の供養という思いが、私に残された人生の励みになるでしょう。

安らかにお眠りください。

二〇一四年二月十六日

あんどろ まこと

## 奥田先生の思い出

小林 泉美

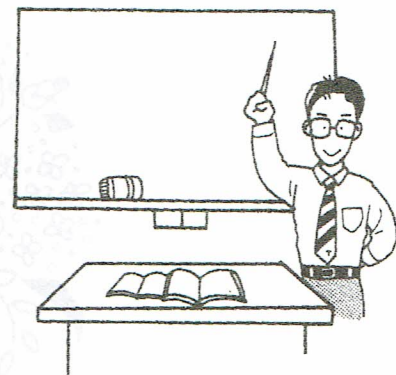
奥田順吉先生に教えていただいたのは中3の一年間。生徒会活動や数学の授業でお世話になりました。(何か今までと違う教え方してくる先生だなあ)と思っ ました。「奥田先生になっ てから何か数学よう分かる ようになつたわあ。」と言 う友達もいました。これが 水道方式の授業であったこ とを知るのは、私が奥田先 生と同じ教職についてから のことです。

卒業が近づいたある日職員室にサイン帳を持って先生を訪ねました。先生は力強く大きな字で「学習は力なり」と書いて渡してくれました。(すっかり勉強しな

いとということかなあ)と思っ い受け取ったことを覚えて います。しかしこの言葉に 込められていたそれ以上の 意味をその後噛みしめるこ とになりました。

大学を卒業した私の教員としてのスタートは、幸運なことに奥田先生と同じ地域の小学校でした。何と先生は私が卒業後もずっと母校吉永中学校に勤めておられました。お会いするた びに稚拙な私の実践をにこ にこして聞いてくださり、 水道方式の授業のことや生活指導の実践について教え てくださいました。紹介し てくださった本を読んだり 学習会に参加したりするう

ち、独りよがりで行き詰まっ ていた実践が少しずつ膨ら んできて嬉しくなりました。



組合の活動では、いつも 温厚な先生が大きな声ではつ きり意見を言われる姿にも 出会いました。(私も若い 仲間が学習したり交流した りする中で少しでも教師と しての力量を高め自信をもつ て教壇に立てるようにした いなあ)と青年部の三役に 入り活動するようになりま した。何か取り組みをする たびに「うちの学校の青年 部の人にも声をかけたから なあ。」と励まし応援して くださいました。

退職されて久しぶりの同

窓会に出席して下さった先生とお会いしました。「今僕こんなことしようるんよ。」

と『子育て教育なんでも相談ネットワーク』の話を熱く語り、

「何が楽しいってネットワークの飲み会でほかの先生と話せるんがなあ：一番ええなあ。」

といつも笑顔が満開でした。

そして、両親の介護のため早期退職した私に「一度ネットワークに顔を見せてくれりゃあええのに。」と誘ってくださったのは二〇一二年の二月のこと。

「このレイアウト見てん。ハートがもうちよつと大きいほうがええかなあ。」とにこにこしながら印刷したばかりの紙を渡して下さった先生。

「先生。パソコンお上手じゃないですか。」

と言うと、「今、一生懸命習よんよ。」

なかなかうまい調子にいかんけど、できるようになったら面白いなあ。この頃は難波先生の講演のレジュメをこうして担当しようというわけ。

ネットワーク通信もパソコンで作りゃあえんじやけどなあ。あれはあれで奥田先生の手書きがええわ！と言うてくれるファンがおつてな。」

手引書をそばに置きながら新しいパソコンに向かって本当に楽しそうに作業をしておられました。

お昼には 難波先生と三人で行きつけのラーメン屋さんでおいしいラーメンを食べた後 喫茶店に寄りコーヒーを飲みました。その日お二人のしてくださった話からは活動を始めた時と変わらぬネットワークへの熱い思いが伝わってきました。

と同時に支えてきた仲間の高齢化や今後のネットワークの活動を心配する気持ちもお別れするとき、

「今日は先生にお会いできてよかったです。新しいことに楽しそうに挑戦しておられる先生から元気をいただきました。」

とお礼を言うと、「何を言よんでえ 若いのに。反対じゃが。」

と笑われてしまいました。「これからもちよくちよく来てよ。」

と言ってく下さったのに、認知症の母の介護・末期が見つかつた父の看病と続き その日が先生との最後の日となつてしまいました。

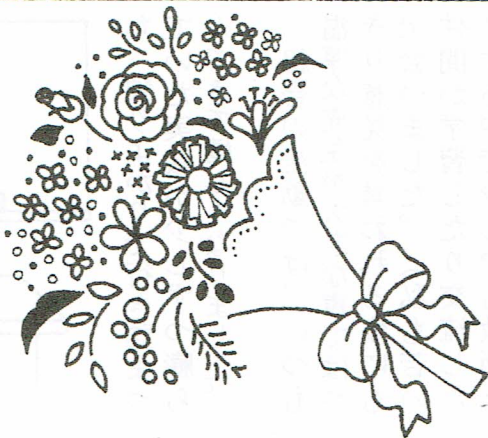
昨年十一月十四日闘病中の父がとうとう逝き、祭壇の遺影に向かって手を合わせる日が続いている頃、悲しい知らせが届きました。父と同じ年だった先生が父を追うように旅立っていかれました。最後の病氣も父と同じでした。

いつも笑顔の奥田先生！もう一度お会いしたかった

です。

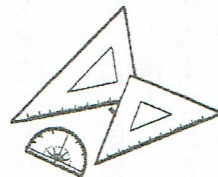
仲間と学ぶことの大切さや楽しさを教え続けて下さつてありがとうございました。先生へ学習は力なりがが力を合わせながら まっすぐ進んでいけるよう見守っていてください。

こぼやし いずみ



追悼 奥田先生

# たすきが数学教師



衣笠 祥子

「ウオホオホオ」高らかな笑い声。「オツそうだそうしよう！」手を打って自分の思いつきをほめる。「今日は昼食はうどんにしましょうか」「そうじゃナア・・・」なんとなく乗り気でなさそうだが・・・、心中は弾んだ様子の声。もう聞けないんだ・・・。

年末押し迫った日に突然訃報が届いた。弱っておられるとは聞いていたが、春までは・・・と祈っていたのに。また、ネットワークがさみしくなる。

先生は、ネットワーク通信を手書きで長年書いてくださり『通信の奥田』としてなくてはならない存在でした。相談員としては優し

くじっくりとお話を聞いてあげ、励ましてあげておられました。通信の合本を前編・後編とまとめるという大事業を完成し、ネットワークに大きな財産を残されました。印刷を手伝いました。物差しで中心をはかって一ミリでもずれていると、用紙の位置を調整してきちょうめんに丁寧印刷されました。さすが、数字にこだわる数学の教師だナアと驚嘆したものです。

かつて、私が進学した中学校に若かりし奥田先生が赴任されました。団塊の世代で田舎の中学校でさえ一クラス増えた時代でした。数年しか在職されませんでしたし、担任も教科も教え

てもらいませんでしたが、全校の行事などでは皆の先生方と楽しく交流できる小さい中学校でした。若い男性の教員はやはり人気者で、女生徒が取り巻いていたように思い出します。

ネットワークで再会したときには驚きましたが、それからのおつきあいを楽しくさせていただきました。ありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

きぬがさ よしこ



相談ネットワークの仲間と牛窓沖の前島にて  
左から2人目が奥田先生

# 学校の今を考える

今の私を責めないで 未来の私を励まして

生まれ育ち、学びながら生きるということ②

|| 小学生と教師の風景からその2 ||

高卒認定フジゼミ

志賀兼允

(前号より続く) 子どもを見て押し付けるのではなく、子どもの背後にある発達課題を共に考えながら、一人ひとりが価値ある生き方を実現できる援助をしていく。

その意味で他者比較ではなく、個人の尊厳・尊重が導かれ、「ドベだったけど、生まれて初めて1mが跳べた」喜びをみんなと喜び合える。共感の中に学びの根源がある。

自分であれこれやって、いろんな失敗を繰り返しながらつかんだ体験||記憶が集団の共感を得ながら、広くなって深い「自己信頼の力」となって自分を導くのであ

る。単に★★ができたとか☆☆さんより点がいいとかといった比較や、上に伸びる事だけが学力ではないのである。

⑧今、公教育は、人間を豊かに包む学力の代わりに、数値化された呪縛の糸によって身動きできないように囲みこもうと躍起になっている。そして、子育てや教育を、きわめて政治的に扱おうとしている。

やらせ基本法では、国家の意図が家庭にも侵入し、生まれてから死ぬまで目の丸・君が代が強要される仕

組みができた。すなわち個人の尊厳の前に、国家の利益・秩序が教育の軸に置かれてきたのである。

⑨端的に言えば、ひとりひとりの人格を大切にする教育などという、しちめんどうな事は考えず、要するに銭になる人間||人材育成||をどれだけ効率的・能率的に作るかが、その目指す方向として描き出されている。そこであらわれる学力観は強烈である。

⑩ひとりひとりの生活の背

景などは考えてはいけない、なんで、この子はこうなのか、と言った時間のかかる事や、手間のかかる事を考えていたら銭になる人間は育たないというわけだ。

「あれをしてはいけない、これもしてはいけない。その代わり、こうしなさい、ああしなさい」と言う上意下達の論理がまかり通っている。まさに国家のシステム、ルール、制度によって一人ひとりが縛られ、自由を奪われ、国家のシステムが、ストレートに人間の上

に君臨してきたのである。

⑪学力そのものは平面的になり、子どもそのものも人間からモノのように扱われてくる。実際にもう学校現場では、子どもは松・竹・梅と分けられた商品のように、完全にモノ扱いになっている。国民の自尊心を平気で斧で断ち切りながら、いったん国家の自尊心となると、針でちよつとさされ

たくらいでも悲鳴をおあげになる、と言った具合に物が強権的に進んでいる。子どもの側から言えば、数値のモノサシで測られた学力は重く一人ひとりの身の上を覆い、閉塞感に満ちた化け物として登場している。

⑫「何で今頃テストなん？」  
「これ入試に関係するん？」  
「去年もこんなあったん？」  
と詰問するように聞いた。たす中2。教職員は元より、住民の意思さえ問う事なく隠然たるお上の意向にひれ伏すように、任意という名の強制执行的全国学力テストは行われた。

⑬子どもの遊び場が、資本の論理で狭められ、剥奪されて久しい。野に山に、はしゃいだ子どもの姿は過去の風景に閉じ込められ、今、子どもは半径1mの空間で、学校と家庭を動物園の動物のように行き来し、単調で

閉塞的な牢屋の中で発達の要求を抑えられ、子どもらしさを奪われ、歪んだ人格形成を強いられ、学びから遁走し、生きる意味さえ見失いつつある。

⑭「せめて試験中ぐらいは午後帰らせてほしい！」  
「今頃の子どもらは余裕がないよね。もつとのんびりさせてやりたい」と保護者は言う。そして最近の教師の仕事の様変わり、「先生らに余裕がないと、子どもらにも笑顔が出てこんよねえ」と気遣う。

子どもの健やかな成長を願うかぎり学校は父母との協同を可能にする。どんな時代であろうとも、どんな学校にあっても教育は父母との信頼なしには進まない。

⑮信頼、それは人間が生きていく関係の光の中で、一等大切にしたい土壌である。時代が悲観的であれば矛盾

もあからさまである。教育が国民の手にある限り、未来もまた国民の側にある。時代の矛盾を逆手にとつて、互いの苦悩を慰め、支えあい、手を結び合わすには格好の時代ともいえる。

若者の苦しみに共感し、思いを呼び寄せ、父母と子どもとの未来を本当の知恵で探りあい、信頼の光を強く、大きく、眩しいくらいに輝かす時である。

暗闇のように見える時代に逡巡する必要はない。今こそ、弱い者同士が一層強くスクラムを組み、堂々と自信を持って人間の尊厳が花開く輝かしい未来に向かって「荒れるとき」ではないだろうか、荒れる生徒のようにならうか、

でないか、とんでもない時代に入ってしまう。そうなるからでは、もう遅いのである。過去の同じ過ちの轍を二度と踏むまい。まさかすかに言論の自由が許されている間に・・・。  
しが かねみつ

トピック

二月十日コープ山陽で「難波先生の話&新聞紙でコサージュ作り」がありました。青春断想をもとに、実体験を語られ、参加者の感動を呼びました。相談員も参加し、お話とコサージュづくりを楽しみました。お世話をしてくださった皆様ありがとうございました。



写真は無言館の本を手に話をする難波代表

# 子育て・教育のつどい2014

と き 4月27日(日) 10:00~16:00  
 と ころ おかやま西川原プラザ (JR 西川原就実駅 北1分)  
 岡山市中区西川原225 ☎086-272-1923

講 演 「家族力が子どもを育てる」  
 講 師 団 士郎さん (立命館大学大学院教授)  
 日 程

9:30~ 受付開始

10:00~12:30 分科会

「教科書の在り方を考える」

「子どもたちは大切にされていますか〜いじめ・不登校を考える〜」

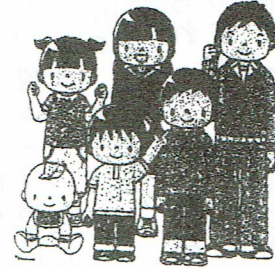
「学校もブラック企業化?〜先生が足りない!学校がなくなる!〜」

「学校現場では〜学力・テスト問題〜」

「障害児支援」

13:30~16:00 講演会

どなたでも参加できます 参加費無料! 無料駐車場完備!  
 主催 子育て・教育のつどい2014実行委員会



年度替わりの季節を迎えました。クラス替えや新しい学校への進学。やっと人間関係をつくってきたのにまた一から始めなくてはならないのです。不安がいつぱいです。

そんな時は、近くの人にそのことを話してみましよう。みんな同じ気持ちですよ。

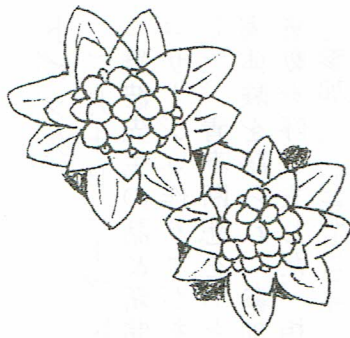
しかし、人は出会いによって他から学び、新しい自分を発見して成長することができます。

この時期は新しい出会いのチャンスと捉え元氣を出しましょう。大人も子どもも。

ネットワーク通信83号は奥田先生の追悼特集号になりました。追悼文を寄せてくださった皆様ありがとうございました。奥田先生のように手書きとはいきませんが、これからもがんばっていききたいと思えます。

A

## ふきのきとのう



と見つけた  
 ひだまりの名もない小花  
 ようを精一杯生きている  
 ように  
 ひそやかに さりげなく  
 の花よ いつまでも  
 野の花であれ  
 いつまでも 野に咲け  
 きは今 別れと出会いの  
 春のはじまり  
 れしいこといっぱい  
 新学期にしたいもの

N